

# 平成 28 年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成 29年 4月 12日

研究・研修課題名	炎症性腸疾患における栄養治療の理解と実践を目的とした患者・家族会の開催
研究・研修組織名（所属）	IBDセンター
研究・研修責任者名（所属）	石原俊治（IBDセンター（消化器内科））
共同研究・研修者名（所属）	平井順子（栄養治療室（IBDセンター））

## 目的及び方法、成果の内容

### ① 目的

潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患（IBD）は、厚生労働省の指定難病に認定されている難治性疾患で、最近の 10 年間で患者数が急速に増加している。島根県でも患者数は急増しており、過去 10 年間で潰瘍性大腸炎は 2 倍、クローン病は 1.6 倍に増加している。また一方では、既存の治療法だけでなく、分子標的薬剤を中心とした新規治療薬の登場によって、より治療法が専門的・複雑化してきている。患者数の増加。治療法の多様性などから、当院では、2015 年 12 月より IBD センターを設立し、消化器内科医だけでなく、消化器外科医、精神科医、薬剤師、栄養士、臨床工学士など多方面のスタッフの協力体制の下で、IBD 診療をより専門的におこなう体制を作った。

設立後 1 年ほどが経過し、スタッフ間でより密なコミュニケーションが取れるようになり、診療が効率的に行えるようになってきている。今回は、IBD センターのスタッフの中で栄養治療・管理の専門家である栄養治療部のスタッフを中心に、IBD 患者およびそのご家族へ IBD における栄養治療の重要性を理解していただくことを主な目的とした。さらに、栄養指導のみならず、外科医、薬剤師からも IBD センターにける活動現状について紹介することとした。

### ② 方法

今回の会合は“島根大学附属病院 IBD センターと患者様・ご家族とのつどい”というタイトルで下記のような予定で開催することとした。当院へ通院中の患者様・ご家族に今回の会合開催について、その内容と意義について説明し、参加していただくように案内した。

開催日時：2017 年 3 月 12 日、12：30～14：30

場所：島根大学医学部臨床小講堂

1. IBD センター設立の目的とスタッフ紹介：石原俊治（センター長・消化器内科）
2. IBD 患者様に対する外科診療の現状：百留亮治（副センター長・消化器総合外科）
3. IBD 患者様への薬剤指導について：中村健志（薬剤部）
4. IBD 患者・ご家族への栄養指導：平井順子（栄養治療部）

上記のスタッフが、15～20 分程度で講演をし、その後会場から質問を受け付けるような形式で会を進め、会終了後には参加者の皆様からアンケートによって質問あるいは感想をいただくこととした。

### ③ 成 果

“島根大学附属病院 IBD センターと患者様・ご家族とのつどい”の会合は、予定通り 2017 年 3 月 12 日 に島根大学医学部臨床小講堂で 12:30 から開催した。スタッフの参加者は、石原俊治（センター長・消化器内科）、百留亮治（副センター長・消化器総合外科）、川島耕作（IBD センター・消化器内科）長濱 道治（精神科）、中村健志（薬剤部）、平井順子（栄養治療部）、大嶋直樹（消化器内科）、三島義之（消化器内科）の 8 名、患者様・ご家族は 25 名の参加があった。以下のプログラムに沿って会を進行した。

#### 1. IBD センター設立の目的とスタッフ紹介（石原俊治）

最初に IBD センターのスタッフ紹介をおこない、多方面のスタッフの協力体制の下で IBD 診療をより専門的におこなう体制を作って活動中であることを紹介した。さらに、内科的治療法の概略について手の説明と今後使用可能となる新規薬剤について解説した。

#### 2. 外科診療の現状（百留亮治）

これまで IBD の外科治療は県外の専門施設などで受けるケースが多かったが、IBD センター設立後は島根大学附属病院での手術件数が増加していることが紹介された。また、現在行われている IBD の手術について適応や術式についてわかりやすく説明があった。

#### 3. 薬剤指導について（中村健志）

IBD の治療に使用される薬剤の種類と効果について丁寧にわかりやすく説明があり、入院患者、外来患者に対する薬剤指導の現状について解説があった。

#### 4. 栄養指導（平井順子）

今回の会合の主たる目的であり、栄養治療部の平井先生が IBD における栄養管理の基本がわかりやく丁寧に解説があった。講演はスライドのみでなく印刷物を IBD 患者様・ご家族へ配布して栄養管理に関する基本を説明いただいた。

討論後は会場からの質問を受けて、スタッフが丁寧に回答して納得いただいた。会終了後に配布したアンケートによって、あるいはその後の外来受診時の時に、直接患者様から会合に関する評価をいただいた。それによると、今回の会合では栄養指導のみならず、外科診療、薬剤指導など IBD 診療に関わる現状について広く理解ができて有意義であったのご意見を多くいただいた。今後もスタッフ間でコミュニケーションを密に取り、時に今回のような会合を開催することでより患者様のためになる IBD 診療に努めていきたい。



